

Ledya Home Doctor

レディホームドクター

診察室

下肢静脈瘤の治療法 —弾性ストッキング—

「夏になると脚がだるくて困ります」という声をよく聞くことがあります。

寒い時には体温を逃がさないように収縮していた皮膚の血管が、気温が高くなると逆に拡張して体温の調節を行います。

「脚のだるさ」気温の上昇が原因

下肢静脈瘤の患者さんでは、脚の静脈の弁が閉まらなくなつて心臓に血液がうまく戻れない状態になっているので、普段から正常な方より多くの血液が脚に溜まっています。気温が上昇してくると皮膚の血管が拡張し、さらに血液が脚に溜まるので「脚のだるさ」はますますひどくなつてしまいます。下肢静脈瘤治療の目的は「うっ血」を正常に戻すことにより「脚のだるさ」などの症状を改善することです。ストリッピング手術や血管内レーザー治療などは、「うっ血」を正常化するための根本的治療です。

ストッキング利用する圧迫療法

その他の対症的な治療法の一つに圧迫療法

法があります。脚のうっ血を改善する圧迫療法には、いろいろな種類の靴下やストッキングが利用されています。このストッキングの効果は、適切な圧迫を適切な部位に加えることにより、適切な血液の流れを作り出すことによって得られます。確実に効果を得るためには、日本静脈学会が開催する講習を受けた経験のある弾性ストッキングコンダクターや医師により足、足首、ふくらはぎ、太ももの周径を測定、デュプレックス超音波検査やエアプレティスモグラムなどでうっ血の状態をチェックしてストッキングを選択する必要があります。

自己判断で症状悪化も

治療は専門コンダクターに相談を

普通のストッキングと同じように自己判断だけで選ぶと効果が不十分な場合がある



だけでなく、着用によってかえって症状が悪化する場合も見られます。特に閉塞性動脈硬化症という病気で脚の動脈が閉塞している場合には、ストッキングで強く締め付けることで脚に血液が流れなくなり、酸素や栄養が欠乏して重大な症状があらわれることがありますので、注意が必要です。

下肢静脈瘤の治療目的で弾性ストッキングを選ぶ時にはもちろんですが、下肢静脈瘤を認めない方でも「脚のだるさ」がひどく弾性ストッキングをお考えの方は、専門コンダクターや経験のある医師に相談することをお勧めします。



解説医師

諸國 眞太郎 先生

医療法人社団操仁会理事長。岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長(1)。諸國眞太郎クリニック院長(2)。1981年岡山大学医学部卒業。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。

■ (1) 岡山市中区高屋343 TEL.086-272-4088

■ (2) 岡山市北区錦町6-17 OWLSTYLE錦町2 4階
TEL.086-224-1313

URL <http://www.varix.jp> E-mail laser@varix.jp